

第 3 6 回

宮崎整形外科懇話会

プログラム

日 時：平成10年7月25日（土）14：30開会
会 場：宮崎県医師会館 地下大ホール
（宮崎市和知川原1-101 TEL 0985-22-5118）
会 長：田 島 直 也
宮崎医科大学整形外科学教室
共 催 宮崎整形外科懇話会
住友製薬株式会社

—— 参加者へのお知らせ ——

1. 参加費 ; 会場受付で申し受けます。 1000円
2. 年会費 ; 未納の方は受付で納入お願いします。 5000円
(受付14:00 より)

—— 演者へのお知らせ ——

1. □演時間 ; 1題6分、討論3分程度とします。
2. □演用スライド ; 単写とします。演者は講演30分前までにスライドをスライド受付に御提出下さい。

—— 役員会のお知らせ ——

13:50 ~ 14:20 小会議室 (1階)

—— 特別講演のお知らせ ——

17:00 ~ 18:00

『頸椎捻挫 - 主に交通事故の症例について -』
宮崎医科大学法医学講座 高濱 桂 一 教授

註 上記講演は
日本整形外科学会教育研修会 (1単位)
認定番号 98-0337-00
に認定されておりますので御参加下さい。
日本整形外科学会の研修手帳をお持ちの方は御持参下さい。
尚、受講料は1000円を申し受けます。

—— お問い合わせ先 ——

事務局 宮崎医科大学整形外科学教室内
宮崎整形外科懇話会事務局
担当 柏木 輝 行

〒889-1692 宮崎郡清武町大字木原 5200
TEL 0985-85-0986 (直通) FAX 0985-84-2931

14:30 開 会

14:30 一般演題 I.

座長 田邊 龍樹

1. 手指末節骨内に生じた類上皮嚢腫の一例
宮崎医科大学整形外科 河野 立、他
2. 近位脛腓関節癒合症の1例
球磨郡公立多良木病院整形外科 井上 篤、他
3. 膝蓋骨上極剥離骨折 (sleeve fracture) の1例
永吉整形外科 永吉 洋次、他

15:00 一般演題 II.

座長 谷脇 功一

4. 頸椎棘突起縦割式脊柱管拡大術における Thread wire saw
の使用経験
宮崎県立宮崎病院整形外科 田爪陽一朗、他
5. 先天性環椎後弓欠損症の一例
高千穂町国民健康保険病院整形外科 野辺 達郎、他
6. 保存的に治療した外傷性上位頸椎骨折の3例
済生会日向病院整形外科 栗原 典近、他

15:30 主題：頸椎の交通外傷－主に頸椎捻挫について－

座長

前原 東洋
久保紳一郎

1. 頸椎捻挫における頸椎性彎曲のX線学的検討
宮崎社会保険病院整形外科 深野木由姫、他
2. 交通外傷による頸椎捻挫－自賠償保険統計から－
宮崎医科大学整形外科 作 良彦、他
3. 当院における鞭打ち損傷について
医療法人東陽会整形外科前原病院 中川 雅裕、他
4. 治療に苦渋した外傷性頸部症候群の1例
宮崎県立延岡病院整形外科 谷脇 功一、他

—— 討 論 ——

—— 休 憩 ——

17:00 特別講演 座長 田島 直也

『頸椎捻挫－主に交通事故の症例について－』
宮崎医科大学法医学講座 高 濱 桂 一 教授

18:00 閉 会

開 会 (14:30)

一般演題 I. (14:30~15:00) 座長 田邊 龍樹

1. 手指末節骨内に生じた類上皮嚢腫の一例

宮崎医科大学整形外科

○河野 立 岡田 麻里
坂田 勝美 黒木 龍二
神 豊 蛭原 啓文
川 越 正一 田 島 直也

類上皮嚢腫は手指の軟部組織にはよく見られるが、指骨内に発生する例は稀である。今回我々は、左中指末節骨内に生じた類上皮嚢腫の一例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。
【症例】 14歳、女性。左中指遠位指節間関節の疼痛、腫脹を主訴に近医受診。X線上、末節骨の溶骨性変化と病的骨折を認め、平成10年3月20日当科外来紹介受診。MRIにて同部位にT1 low、T2 high、Gdでenhanceされる腫瘍像を認めた。手術目的にて同年4月28日、当科入院。4月30日に腫瘍切除ならびに骨移植術を施行した。病理組織は類上皮嚢腫との診断であった。

平成10年7月25日現在、経過観察中であるが腫瘍の再発は認めていない

2. 近位脛腓関節癒合症の1例

球磨郡公立多良木病院整形外科

○井上 篤 浪平 辰州
吉田好志郎

【はじめに】今回我々は、近位脛腓関節癒合症と考えられる1例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。
【症例】 6歳、女性。幼少時からの右近位脛腓関節部の軽度突出にて精査希望初診。自覚症状や膝、足関節の可動域制限なく、血液、生化学的にも炎症所見を認めない。単純X線にて近位脛腓関節部に不規則な骨硬化性変化を認めるが、骨シンチでは左右差は認めない。CTで近位脛腓関節の骨形成変化を認め癒合症と診断した。全身的検索も行ったが他の奇形群は存在しなかった。外来にて経過観察中である。

3. 膝蓋骨上極剥離骨折 (sleeve fracture) の1例

永吉整形外科

○永吉 洋次 岩切 清文

小児の膝蓋骨下極部の筒状剥離骨折はsleeve fractureと呼ばれ、よく知られている。

今回、我々は小児のsleeve fractureと同様の介達外力で生じた22才、男性の膝蓋骨上極剥離骨折の1例を経験したのでMRI所見などを含め若干の考察を加えて報告する。

一般演題Ⅱ. (15:00~15:30)

座長 谷脇 功一

4. 頸椎棘突起縦割式脊柱管拡大術におけるTread wire sawの使用経験

宮崎県立宮崎病院整形外科

○田爪陽一朗 小林 邦雄
徳久 俊雄 高妻 雅和
阿久根 広宣 佐本 信彦
松浦 愛二 牟田□ 滋
末永 賢也 門内 一郎

頸部脊柱管狭窄症に対してこれまで桐田式の広範同時除圧椎弓切除術を皮切りに、いろいろな方法が開発されてきた。当科でも従来桐田-宮崎法による椎弓切除術を行ってきたが、平成9年から症例によって、Tread wire saw (T-saw) を用いた棘突起縦割式脊柱管拡大術を行っていった。この方法は、黒川らが開発した棘突起縦割式脊柱管拡大術の棘突起を縦割する際、エアートームの代わりに、富田らがT-sawを応用したもので従来の方法に比較すると安全・迅速かつ容易に行いうる。我々もT-sawを用いた5例を経験したので、文献的考察を加え有用性について報告する。

5. 先天性環椎後弓欠損症の一例

高千穂町国民健康保険病院整形外科 ○野辺 達郎 飯干 明

環椎、軸椎などの上位頸椎は各種の奇形の好発部位であるが、その中で先天性環椎後弓欠損症は稀な奇形の1つであり報告も少ない。今回、我々は本奇形を1例経験したので若干の文献的考察を加え報告する。【症例】13歳、女子。平成9年10月乗用車乗用中追突され、項部痛を主訴に当科受診。初診時、傍脊柱筋の軽度圧痛を認めたが他に神経学的異常所見を認めなかった。単純X線側面像にて環椎後弓は後結節の不安定性を認めなかった。単純CTにて後結節のみが残存しており、MRIでも環椎後弓欠損部は骨組織のみならず軟骨様組織もみられず脊髄の異常も認めなかった。その他の上位頸椎部の合併奇形はみられなかった。初診後1週間で項部痛は軽快した。

6. 保存的に治療した外傷性上位頸椎骨折の3例

済生会日向病院整形外科

○栗原 典近 酒井 健
森田 信二

当院で最近経験し、保存的に治療した外傷性上位頸椎骨折の3例について報告する。

【症例1】28歳男性。交通事故にて受傷。頸部の不安定性を訴え、CT上歯突起骨折を認めた。ベッド上安静、SOMI装具にて加療し、現在社会復帰している。

【症例2】63歳男性。作業中2mの高さより転落。四肢麻痺と第2、3頸椎椎体骨折を認め、8週間のクラッチ牽引後装具を付けベッドアップ開始し、現在リハビリ中である。

【症例3】66歳男性。バイク事故にて受傷。麻痺なく、近医にてXp上異常を指摘されなかったが、激しい頸部痛があり、CT上、歯突起の斜骨折を認めた。転位がわずかであったため、グリソン牽引施行中である。

【まとめ】上位頸椎骨折においてはCTが診断上有用であり積極的に行うべきである。

主題：頸椎の交通外傷

(15:30~16:50)

- 主に頸椎捻挫について -

座長 前原 東洋、久保紳一郎

1. 頸椎捻挫における頸椎性彎曲のX線学的検討

宮崎社会保険病院整形外科

○深野木由姫
大田 博人

田邊 龍樹
矢野 浩明

【目的】頸椎捻挫においてX線学的に頸椎の生理的前彎の減少が認められることは一般的には言われている。今回我々は交通事故後の頸椎捻挫に対して頸椎性彎曲のX線学的検討を加えた。

【対象及び方法】症例はH7年1月からH10年5月までに当院を受診し頸椎捻挫と診断された男性43例、女性52例、合計95例である。佐々木の方法により、頸椎性彎曲のX線学的検討を行った。頸椎の形態学的変化は健常人においても性別年齢でかなりのばらつきが認められているため年齢別及び性別を分けて統計学的検討を行った。

【結果】各年齢群において頸椎捻挫と正常人では頸椎の彎曲の優位差は認めなかった。また、神経症状を認めた症例とそうでない症例においても優位差は認めなかった。今回の検討では前彎度と頸椎捻挫の相関は認められなかった。

2. 交通外傷による頸椎捻挫 - 自賠償保険統計から -

宮崎医科大学整形外科

○作 良彦
久保紳一郎
後藤 啓輔
田島 卓也
桑原 茂

田島 直也
松元 征徳
江夏 剛

国立療養所宮崎病院整形外科

【対象および方法】平成8年度自賠償保険医療費統計を基に宮崎県において発生した交通外傷による頸椎捻挫について、発生状況と診療状況について全国との比較を行った。

【結果】頸椎捻挫の発生件数は、全国総数は330,268件であり、宮崎県では4,462件であった。全国統計では、全傷害の26.9%にあたり、頸部傷害の99.2%にあたる。1件平均診療費は、118,381円(94,821円)、診療期間40.1日(44.7日)診療実日数17.7日(14.8日)、入院率10.9%(4.1%)であった。()内は、全国平均値である。

【考察】全交通外傷発生件数の中で頸部の外傷は、その約1/3と最も発生頻度の高い部位である。頸椎捻挫は、頸部外傷の99.2%を占める。軽症とされているが、総診療費は、300億円を越えているのが現状である。宮崎県においては、入院率が高い傾向が認められた。加えて、平成8年当科における頸椎捻挫の初診者の診療状況の特徴について報告する。

特別講演 (17:00~18:00) 座長 田島 直也

頸椎捻挫—主に交通事故の症例について—

宮崎医科大学法医学講座 高濱 桂一 教授

交通事故と私ども法医学とのかわり、死亡事故と傷害事故の双方があるが、特に後者の場合は、いわゆる頸椎捻挫に關する鑑定要請がその大半を占めている。傷害保険の給付が傷害の實態に關するに依り、私ども法医学の双方から求められることになり、私ども法医学にお鉢が廻って来るという訳である。

本日は、交通事故による頸椎捻挫の医療面を専ら担当しておられる、整形外科領域の専門医師の方々の対象とした講演会であるので、私自身も法医学ではどの様な手法を用いてその鑑定に當つていらっしゃるかを、私の経験と期待する次第で披露申し上げ、皆様方の今後の研究の一助にもなればと

閉 会